様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 11 日現在

機関番号：26401
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2010～2011
課題番号：22792195
研究課題名（和文）：安全と安心を護る外来化学療法患者の抗がん剤管理・防御のセルフケア支援指針開発
研究課題名（英文）：Self-care support indicator development of antineoplastic drug management and defense of the visitor chemotherapy patient who protects safety and relief
研究代表者
府川　晃子（FUKAWA AKIKO）
高知県立大学・看護学部・助教
研究者番号：30508578

研究成果の概要（和文）：抗がん剤は適切な管理と取り扱いへの注意が必要とされる危険薬剤であり、外来化学療法を行う患者を支援する看護師は、患者が自宅でも安全に抗がん剤を取り扱いして曝露を防ぐことができるよう、セルフケアへの支援をする必要がある。患者・家族に過度の不安や負担を与えずに、抗がん剤の安全な管理・取り扱いについてどのように情報提供をし、セルフケアにつなげていくかについては看護師の専門的な判断と技術が必要となると考えられるが、こうした支援について明らかにした先行研究はみられない。

そのため本研究では外来化学療法に携わる看護師にインタビューを行い、内容を質的に分析し、抗がん剤の安全な管理・曝露予防に関するセルフケアへの支援に関連した内容として 12 のカテゴリーを抽出した。外来化学療法に携わる看護師が実際に行っている＜外来化学療法における曝露予防に関する情報収集とアセスメント＞、＜外来化学療法における曝露予防への支援＞、＜支援を阻害する要因＞の 3 つの要素が明らかとなり、今後は看護師自身が曝露予防に対する意識を強めるとともに、知識を強化して根拠をもった支援を進めていく必要があることが明らかになった。

研究成果の概要（英文）：An anticancer agent needs a suitable manage and careful handling. The patient needs to deal with and do an antineoplastic drug safely also at a house, and needs to prevent exposure. The nurse who supports a chemotherapy by visitors needs to offer support for a patient's self-care.

In order to carry out information dissemination about safe management and handling of an antineoplastic drug and to support self-care, a nurse's special judgment and technology are needed. However, the precede work done the obvious about such a support is an out of.

I interviewed the nurse engaged in the chemotherapy in visitors. As a content relevant to an about self-care support, I extracted the category of 12 to prevent a safe manage and exposure of an anticancer agent. Three factors became clear. They are about information gathering, the assessment >, <a support for preventing an exposure>, and <a factorial which checks a support> preventing < exposure. The nurse should regard more about preventing an exposure. Moreover, it became clear that it is necessary to strengthen a knowledge and to advance the support with a reason.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	500,000 円	150,000 円	650,000 円
2011 年度	500,000 円	150,000 円	650,000 円
年度			
年度			

年度			
総　計	1,000,000 円	300,000 円	1,300,000 円

研究分野：医歯薬学
科研費の分科・細目：臨床看護学
キーワード：がん看護、外来化学療法、セルフケア

１．研究開始当初の背景

2002 年の診療報酬改定、外来化学療法加算の新設により、外来化学療法を行う施設は増加の一途をたどっている。外来化学療法は、がん患者がそれまでと変わらぬ日常生活・社会生活を送りながら外来で治療を継続でき、患者にとってのQOL 維持が保障されるというメリットが大きい。しかし、外来がん化学療法を行っている患者は、療養生活の中で患者自身によって状況の判断をしなければならず、今まで以上にセルフケアの必要性が高まることとなる。

抗がん剤は制がん作用の他に発がん性、変異原性などの有害な作用も持つ危険薬剤であり、抗がん剤を取り扱う医療従事者への健康への影響の可能性は早くから示唆され（Flack,1979）、薬液のこぼれや血管漏出時の対応についても、危険薬剤として抗がん剤スピルキットを用いての厳密な除去が必要である（米国病院薬剤師会,1990）と定められている。更に、多くの抗がん剤は投与から48 時間以内に尿中に排泄されているため、治療後 48 時間以内の患者の排泄物・体液、あるいは汚染されたリネン類は、危険薬剤の汚染物として防御策を実行する必要があるとされている（石井他,2009）。このような状況の中、抗がん剤の安全管理や防御方法については、医療者側の取り扱い等はマニュアル化されつつあるが、治療の主体である患者の安全と安心を護る抗がん剤管理、曝露への防御方法に関するセルフケア支援の内容は未だ曖昧であり、患者のセルフケアの実態も明らかでない。米国がん看護学会ではがん化学療法の看護実践ガイドライン（2005）の中で、がん患者とその家族が自宅で抗がん剤への曝露をどのように避けるか、化学療法廃棄物を安全に取り扱うための情報を具体的に掲載している。これは国際がん研究機関の文献（2004）に基づき、在宅における化学療法の安全マネジメントとして、自宅での危険薬剤の処理、排泄物の管理、家族との関わりについてなどをまとめたものである。患者の療養生活上のセルフケアの助けとなるものだが、わが国においてこれらの資料は広く知られておらず、文化や医療・社会制度の違いからもこの内容をそのまま適応するのは難しいと考える。わが国においては、外来がん化学療法を行う患者のセルフケアの促進は安全な化学療法実践のための最も重要な要素の一つとなっている（井上,2009）が、外来がん化学療法を行っている患者のセルフケア、セルフマネジメントについて述べた研究はまだ少なく（神田他,2008)、それらの多くは全身症状を主とした副作用症状への対応や症状の自己管理に主眼がおかれており（福田,2002、佐伯ほか,2006 等)、曝露予防や抗がん剤の安全な管理についての先行研究はみられない。

そこで、わが国の外来化学療法患者の抗がん剤の安全な管理や曝露予防について、看護師の認識や患者のセルフケア支援の実際を知り、効果的なセルフケア支援への示唆を得る必要があると考えた。

２．研究の目的

本研究の目的は、外来化学療法を行う患者

の在宅における抗がん剤の安全な管理・取り扱い、曝露からの防御方法に関するセルフケアへの支援に焦点を当て、外来化学療法に携わる看護師の患者への支援の実際を明らかにすることである。その結果を踏まえ、外来化学療法に携わる看護師が、患者の抗がん剤の安全な管理・曝露予防に関するセルフケアへの支援をする場面において、効果的な介入ができるよう具体的な支援内容への示唆を得ることである。

３．研究の方法

(1) 既存の国内外文献より、外来・在宅がん化学療法を行う患者の療養生活での抗がん剤の安全な管理や抗がん剤曝露からの防御の方法・エビデンスを抽出し、必要なセルフケアの内容を検討し、インタビューガイドを作成する。作成に当たっては、がん看護の専門家にスーパーバイズを受け妥当性を確認する。

(2) (1) で作成したインタビューガイドを使用し、外来がん化学療法に携わる看護師へのインタビューを行う。それにより、外来化学療法を行う患者の在宅における抗がん剤の安全な管理・取扱い、曝露からの防御方法に関するセルフケアへの看護師の支援の実際に関するデータ収集を行う。

(3) 以上 (1)、(2) から明らかとなった内容を質的に分析し、外来がん化学療法を行っている患者の安全な抗がん剤管理、曝露からの防御方法に関するセルフケア支援についての知見を得る。データ分析の過程に際しても、がん看護のエキスパートにスーパーバイズを受けすすめていく。

なお、本研究は高知県立大学看護研究倫理審査委員会の承認を得て行う。

４．研究成果

対象者は看護師 7 名、外来化学療法に携わった平均年数は 3.9 年であり、7 名のうち 4 名が、がん化学療法認定看護師であった。

インタビュー内容から、曝露予防に関するセルフケアへの支援に関連した内容として 12 のカテゴリーが抽出された。それらをもとに、外来化学療法に携わる看護師が実際に行っている＜外来化学療法における曝露予防に関する情報収集とアセスメント＞、＜外来化学療法における曝露予防への支援＞、＜支援を阻害する要因＞の 3 つの要素が明らかとなった。

要素	カテゴリー
外来化学療法における曝露予防に関する情報収集とアセスメント	看護師間で連携を取り患者の情報を共有する
	曝露予防への支援が必要なケースかどうか判断する
	外来受診の時間を効率的に使って患者から情報収集をする
外来化学療法における曝露予防への支援	曝露について注意する内容を具体的に説明する
	薬剤の管理状況を継続的に確認する
	患者のセルフケア能力に合わせて曝露予防ができるよう調整する
	他職種やエキスパートと連携を取り患者に指導する
支援を阻害する要因	外来で曝露予防への支援をどこまで優先するかの判断が難しい
	自宅でどのようなセルフケアを行っているか状況がみえない
	曝露の危険性や予防の優先順位が明確でないため説明でき

	ない
	患者・家族が化学療法に悪いイメージを持ちそうで説明しにくい
	曝露予防に対する看護師の知識や意識が不足している

（1）外来化学療法における曝露予防に関する情報収集とアセスメント

外来看護師は曝露予防への支援に関して、《看護師間で連携を取り患者の情報を共有する》、《外来受診の時間を効率的に使って患者から情報収集をする》など、外来患者の支援を行うための普遍的なスキルを活用して情報収集をしていることが分かった。さらに、患者個人の治療への受入れや、本人がどのような情報を必要としているかニードを探り、《曝露予防への支援が必要なケースかどうか判断》していることが明らかになった。

（2）外来化学療法における曝露予防への支援

患者の自宅での体調の変化に添ってセルフケアの状態も変化することから、外来看護師は曝露予防への支援に関しても、《患者のセルフケア能力に合わせて曝露予防ができるよう調整する》、《他職種やエキスパートと連携を取り患者に指導する》など、有害事象や治療方法に関する知識をもとに、他職種と協働して調整を行っていることが分かった。

また、限られたタイミングでしか患者と関われないという外来の特性から、子供や孫が生まれたという話が出たときに説明する、排泄に関する話題が出たタイミングをつかんで説明するといった《曝露について注意する内容を具体的に説明》し、患者それぞれの生活に応じた問題に焦点を絞って情報提供をしていることが明らかとなった。

（3）支援を阻害する要因

支援を阻害する要因として、《曝露予防に対する看護師の知識や意識が不足している》現状が明らかとなった。また、曝露のリスクについて説明することで《患者・家族が化学療法に悪いイメージを持ちそうで説明しにくい》という思いがあること、同時に、抗がん剤への《曝露の危険性や予防の優先順位が明確でないため説明できない》ことから、どこまで情報提供をして良いのか迷っている現状が明らかとなった。

（4）今後への示唆

今後は看護師自身が曝露予防に対する意識を強めて支援を続けていくとともに、抗がん剤の排泄経路や薬物動態から自宅での曝露のリスクについて判断する、リスクが高いと判断した際には治療内容の変更について多職種と協議するなど、抗がん剤に関する知識を強化して、根拠をもった支援を進めていく必要があることが明確になった。

外来化学療法を受けている患者が、自宅で療養生活を送る中で多くの不安や苦痛を抱えていることは、先行研究（2003，小澤など）から明らかになっている。また、外来化学療法を受けている患者の個々の生活背景はそれぞれ異なるため、個々に見合った対処方法を考えることが患者のセルフケア行動を支援する第一歩となる（2009，布川）と言われている。曝露予防対策についても、看護師は、患者・家族に不要な不安を与えずに安全な管理・曝露予防が行えるよう、特にリスクが高いと考えられるケースについて患者の生活に即した対策を立てるなど、支援の根拠となる抗がん剤に関する知識を持つことが重要であることが示唆された。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線）

〔雑誌論文〕（計 0 件）

〔学会発表〕（計 0 件）

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
府川　晃子（FUKAWA AKIKO）
高知県立大学・看護学部・助教
研究者番号：30508578

(2)研究分担者
なし　　（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
なし　　（　　）

研究者番号：